

株式会社 早稲田塾 行動計画

女性が活躍できる雇用環境・労働環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

1. 計画期間 平成28年 4月 1日～平成30年 3月31日

2. 当社の課題

男女の継続勤続年数に大きな差は見られないが、管理職に占める女性の割合が低い。
管理職に占める女性労働者の割合 20%(15名中3名)

3. 目標

管理職に占める女性管理職を30%以上に引き上げる。

4. 取り組み内容と実施時期

<取組内容>

- 1)平成29年 6月～ 出産・子育てをしながら働いた経験のある先輩女性社員と若手女性社員の交流会を設ける。
- 2)平成28年 4月～ 女性管理職増や女性の長期雇用の実現を図ることを目的とした人員配置を検討する。
- 3)平成28年 4月～ 育児休暇や時短制度を利用しやすいよう、申請手順や既存の届出書類を社内で公にする。
- 4)平成29年 4月～ 長期雇用、女性の活躍促進を実現するための人事制度の見直しを行う。

第6ブロック長、吉祥寺校校舎長兼任 【勤続年数（継承）：17年】

吉祥寺校は、帰国子女や中高一貫校に通う塾生が多く、グローバルで先進的な教育環境が整った校舎です。

現役合格は、塾とご家庭がひとつのチームとなって掴みとるもの。そのためにはお互いの密な情報共有が欠かせません。

保護者懇親会など、保護者の方々との意見交換の場を設け、家族ぐるみで受験に向き合うスタンスを築いているのが、吉祥寺校の特色のひとつです。

吉祥寺校では、塾生の約7割がAO入試に挑戦します。また、多くの塾生が他の校舎で開かれている特別講座に積極的に参加し、自分に必要な知識と経験を自ら獲得しています。だからこそ、夢に向かって走る塾生たちにとって、吉祥寺校はほっと落ち着く「第二の我が家」でありたいと願っています。たとえ勉強に疲れても、一緒に学ぶ仲間の顔を見たら、自然とやる気がわいてくる。お互いに切磋琢磨する塾生たちのホームとして、私たちはこれからも彼らを全力でサポートしていきます。



吉祥寺校 校舎長
青木 唯有

金沢文庫校校舎長 【勤続年数（継承）：10年】

横浜・三浦・横須賀地域の高校生が一堂に集まる金沢文庫校。日本に文明開化をもたらした黒船は、この横須賀・浦賀の港に來航しました。文明開化発祥の地で育った子どもたちが、世界に向けて旅立っていく、前途を照らす灯台となる——。

それが、金沢文庫という地域に根ざす私たちの使命です。2013年からは「現役メディカル館」が開設されました。

ここでは、単に大学合格のための知識をつめこむのではなく、どんな医療人になりたいかについて真剣に考え、医療分野の先導者となれる人財を育てていきたいと考えています。

そのためのテーマは、「自立」。金沢文庫校は、塾生の変化率が特に高い校舎だと自負しています。最初は受験のこと、職業のことなど何もわからなくても構いません。ここで一緒に、進路と可能性を発見していきましょう。「文庫で出会う、文庫で変わる」——。そんな一生モノの経験を私たちは提供し続けます。



金沢文庫校 校舎長
近藤 まり子

津田沼校校舎長 【勤続年数（継承）：15年】

千葉エリアの中・高生たちに新しい学びのあり方を提案すること。それが、私たちの使命です。テーマは、「第一志望現役合格」。早稲田塾が開塾以来、貫いてきた信念を、この津田沼の街にも伝承していきます。津田沼には塾・予備校が多く、まだまだ「大学は浪人して通うもの」という認識が根深くあります。10代後半は、自立した大人として社会に出るために必要なことを学ぶとき。多くの中・高生は部活にも懸命に取り組んでおり、勉強との両立に悩んでいます。かけがえのない時期に、部活も勉強も全力投球し、現役合格を実現してほしい。限られた時間の中で最大の学びを得られるよう、個別視聴型授業や、プライベート集中特訓「スピードトレーナー」など早稲田塾ならではのカリキュラムで、しっかりサポートしていきます。



津田沼校 校舎長
川村 聖子

川崎校校舎長 【勤続年数（継承）：9年】

川崎校のビジョンは、第一志望現役合格を通して、世界で活躍する次代のリーダーを育てること。そのためにも、狭い視野で物事をとらえず、常にグローバルな視点を持って「この社会で自分は何がやりたいのか」を考えるよう、塾生たちに提案しています。

主流になりつつある、AO・推薦入試攻略はもちろん、「センター試験で9割取る」が大目標。「現合ビジョン」や「スピードトレーナー」など、多彩なカリキュラムを駆使して、各々の課題に取り組んでいます。また、川崎校は各エリアにある早稲田塾の中心的な位置にあり、他校舎とのアクセスも便利です。この地の利を活かし、近隣校舎の講座やプログラムに参加する塾生も多数。

フリーパスシステムを存分に活用するよう、一人ひとりの時間割はオーダーメイドで作成されます。そのボーダレスな学習スタイルは、世界地図を広げて自らの進路を見つけ出してほしいという早稲田塾の考えそのもの。既存の境界線をこえる世界基準の人財が川崎校から早くも生まれつつあります。



川崎校 校舎長
小野 晶子